

【目次】

1. 日本と違う沖縄のいま
～東村高江 米軍ヘリパッド建設問題～
2. 「神津島創生シンポジウム」開催報告
～論文・議事録・動画 Web掲載～

1. 日本と違う沖縄のいま ～東村高江 米軍ヘリパッド建設問題～

市民活動情報センター代表理事 今瀬政司

沖縄県国頭郡東村高江（くにがみぐん・ひがしそん・たかえ）において、アメリカ軍の新たな基地建設を巡って、沖縄県民と日本政府の闘いが激しさを増している。

東村は、沖縄本島北部の東海岸に位置し、「山原」（やんばる）と呼ばれる豊かな森や海など自然が多く残る地域である。人口は約 1800 人で、ヒルギ（マングローブ）林、つつじ園、真っ白な砂浜のウップマビーチ、県内最大の福地ダムなどの観光スポットや、日本一の生産量を誇るパイナップル、エコツーリズムなどで知られている。東村の高江地区は北側に位置し、国頭村と接する。

そうした東村高江において、アメリカ軍北部訓練場の新たなヘリコプター着陸帯（ヘリパッド）建設を巡って非常に長く対立が続いており、深刻さを増してきているのである。反対の声を上げる沖縄の人たち、建設工事を強行しようと全国の警察官や機動隊を大量動員して反対する人たちを力づくで排除する日本政府、そこで次々と負傷する沖縄の人たち、そうした光景が日々激しさを増している。高江では、直接的な対立以外にも、アメリカ軍基地があるが故に、沖縄の人たちがヤマトと呼ぶ日本本土に暮らす筆者たちには想像を絶する光景が日常的に起こっている。

筆者は、沖縄にある基地問題の解決や地域経済

の活性化などに微力ながら少しでも貢献できればと思い、これまで沖縄を何度も訪れてきている。この東村高江のヘリパッド建設問題についても、その実態を先入観抜きで真っ白な頭で客観的に知ろうと現場を訪れることがある。その高江を訪問した際に遭遇した光景の一つを紹介する。

自然豊かな森が広がる中、一本道の道路を車で走る。その道路の両側は殆どがアメリカ軍基地。所々、小さな集落がある。車を降りて道路を歩いていると、頭上を大型のヘリコプターがバチバチと耳（というより頭）に響く大きな音を立てて頻りに飛んでいく。時折、ヘリコプターからロープを使った降下訓練をする兵士の姿が見える。森の一角にあるカフェで食事をしながら会話をしていると、ヘリコプターが飛ぶ音でテーブルを挟んで座る相手の声が聞こえなくなり会話が途切れる。通常の飛行機や電車等の騒音とも違う桁違いの大きな音で、日本本土では殆ど経験のない爆音といった感じである。

人里近くの片側一車線の道路の左右（県道の歩道）で、武装したアメリカ軍の兵士たち 20 人位が隊列を組んで道端を行進している。戦闘用の迷彩服を着てリュックを背負って、手には大きな「銃」を持っている。【写真】



【写真】銃を持って公道を歩くアメリカ軍の兵士とカフェの看板（撮影：今瀬政司）

そうした兵士たちと、道端のカフェの看板があるところで目の前ですれ違った。突然のことで驚いてしまい、体が凍り付いた。もしも、兵士が銃を自分に向けられたらどうしようと、一瞬、恐怖に襲われた。すれ違った後、冷静になり思い起こすと、兵士たちの顔はとても若かった。疲れた様子で戦闘服を脱いで歩く兵士もいたため、ジャングルで訓練をした後だったのかもしれない。

アメリカ軍の兵士たちは銃を持って平然と歩いていたが、そこは民間地で一般の公道（県道）であるから、もちろん法律違反である。だが、この筆者が遭遇した光景は、地元の住民にとってはよく目にする光景であると聞く。日本本土に暮らす筆者たちにとっては想像を絶する、あり得ないこうした光景が、東村高江の人たちの生活の中では日常的に起こっている。

東村高江をはじめ沖縄の人たちは、「これ以上、日本本土と差別され、虐げられることを受け入れられない」と反対の声を上げ続ける。その声に対して、日本政府はヘリパッド建設工事を力づくで強行する姿勢を強めている。流血の惨事が大きく起こる可能性が否定できない状況になってきている。そのような惨事は起こって欲しくない。日本政府は立ち止まり、ヘリパッド建設を中止する以外に解決の道はない。沖縄の人たちの声を真摯に聞き、事実の結果として虐げるのをやめ、日本本土との差別を解消し、国内外の険しい政治的利害を乗り越えて、新たな安全保障の政策の道を切り拓くべく努力をする必要がある。その努力は、日本政府のみならず、筆者を含めて日本本土の者たち皆に課せられている課題である。（今瀬政司）

2. 「神津島創生シンポジウム」開催報告 ～論文・議事録・動画 Web 掲載～

市民活動情報センターでは、去る 2016 年 3 月 19～20 日、『神津島創生シンポジウム ～“もったいない資源”の繋ぎ合わせからの創生～ プラス 「今後の離島振興のあり方 ～改めて日本の離島振興を問う～」』を開催した。シンポジウムの開催報告として、報告論文、議事録、会議とフィールドワークの様子を撮影した動画等について、当センターのホームページに掲載している。

http://sicnpo.jp/ritou_shinkou/kozu_sympo160320/

神津島創生シンポジウムは、伊豆諸島のほぼ中央に位置する神津島において、「もったいない資源」を見直し、それらを繋ぎ合わせ有効活用するとともに、新たな創造的活用を図り、次代の神津島を創生しようと開催したものである。主催は当市民活動情報センター、神津島郷(シマ)づくり研究会、地域活性学会離島振興部会、協力が国土交通省、後援が東京都神津島村、東海汽船(株)である。これら各団体が自前の費用と担い手と経営資源を持ち寄って、作業の役割分担を図り、手作りで準備を進め、「協働」で開催した。

当シンポジウムは、これまでに島内外の有志が行ってきたシマおこしの一つの節目となり、今後、島を挙げて「協働」で新たな神津島創生に向けた取組みを行うきっかけとなった。島の若者が先輩世代からシマおこしを引き継ぐ可能性の一つにもなった。今後、“もったいない資源”の繋ぎ合わせからの神津島創生が少しずつでも着実に進むよう期待するとともに、当市民活動情報センターとしてもその応援を続けていく予定である。

発行：特定非営利活動法人 市民活動情報センター

発行人：今瀬政司 編集：藤野正文

ホームページ：<http://sicnpo.jp/> E-mail：sic@sicnpo.jp

[大阪事務所] 〒540-0026 大阪市中央区南本町1丁目4-12 NPOビル305号

TEL：06-6944-7799 FAX：06-6944-1944

[名古屋事務所] 〒451-0045 愛知県名古屋市西区名駅2丁目11-8 ファーストビル大樹306号

TEL：052-485-8222 FAX：052-485-8221

Copyright (C) 2016 Shiminkatsudou Information Center (Civic Action Clearinghouse)